

トピックス

男体山（標高 2486m）が活火山として正式認定されました

「火山噴火予知連絡会」は、気象庁で定例会を 6 月に開き、新たに男体山を、活火山に選定したと発表しました。これは最新の研究結果に基づく学術的判断であり、静穏な状況である現状を考慮して、火山防災に必要な監視・観測をする常時観測火山の対象に含まれませんが、観光地としての風評被害を心配する声もあるようです。



栃木県内の山岳登山 82 ルートに難易度格付けが発表されました。

日光白根山や男体山、那須岳など栃木県内にある登山ルートの格付けが、栃木県の「県山岳遭難防止対策協議会」より、8 月に発表されました。技量に合った山のルート選を、体力度 7、技術的難易度 D でした。日光を代表する男体山は体力度 3、技術的難易度 B、日光白根山の湯元ルートは体力度 4、技術的難易度 B と格付けされました。

栃木県内の山岳遭難者は平成 26 年 49 人、27 年 70 人と、県警の統計上過去最多人数を更新したこともあり、栃木県内の登山のルート選の参考になると期待されています。

山の格付けについては、長野県、山梨県、群馬県など 6 県で策定されております。

森のギャラリー



◆森のギャラリーとは
ビジターセンターに隣接する、飲食可能な休憩所です。
また、どなたさまも無料で
展覧会等にご利用いただけます。ご予約は
当センターまで。
TEL 0288-62-2461

日光湯元キャンプ場



湯ノ湖畔にある夏も涼しく、ファミリーや登山者に最適なキャンプ場です。
開設期間：6 月～10 月
問合先
TEL 0288-62-2461

＊購読者の皆様へ重要なお知らせ＊

『楓通信』133 号（平成 30 年 6 月発行予定号）から本誌価格を無料といたします。

いつも「楓通信」をご愛読いただき誠にありがとうございます。長い間、購読料をいただきながら発行しておりました「楓通信」ですが、さらに奥日光の自然情報誌として多くのお客様に読んでいただくために、平成 30 年 6 月発行予定の 133 号より本誌価格は無料とし、引き続き、送料・手数料のご負担で、本誌をお配りいたします。この間の 131 号、132 号につきましては、今までと同じく有料でございます。すでに振込いただいたお客様への対応につきましては、131 号にてお知らせ致します。また、今後、継続購読希望されるお客様に関しては、郵便振替をせずお問合せいただくようお願いいたします。TEL 0288-62-2461

編集後記

「女峰山頂上付近で道に迷った」という悲痛な声が電話口で響いた。聞けば地図もコンパスも所持していないという。もう一度山頂に戻り、下降ルートを確認するよう勧め、どうやら事なきを得た。楽しい登山には、それなりの準備と心構えが必要。山中の道標が完備していれば道に迷わないはず、観光案内所で無料の地図をもらえば、地図を買わなくても済むはず、という甘い考えと思ひ込みが登山初心者に蔓延していたら、非常に残念な傾向だと思います。（M・K）

奥日光の自然情報誌

楓通信 No.130

発行：自然公園財団日光支部

2017 年 9 月 1 日発行

次号 12 月初旬 発行予定

季刊 一部 100 円

奥日光では、クマの目撃報告が毎年多数あります。活動時期には、いつでも遭遇する可能性がありますので、ハイキング等で野外に出る際には、クマに出会わない工夫をしましょう。

奥日光は自然豊かなクマ（ツキノワグマ）の生息地です



奥日光の自然情報誌

楓通信

9-11 No.130 月号

日光名物紅葉風景

奥日光を
愛する皆様に
旬な情報を
伝えたい

かえでことてん

楓事典 秋のシカについてのお話

奥日光 歳時記 平成29年 夏

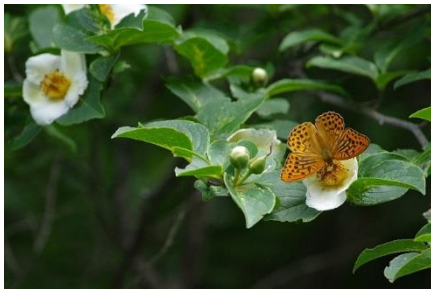


レンゲツツジ咲く戦場ヶ原 7月5日撮影

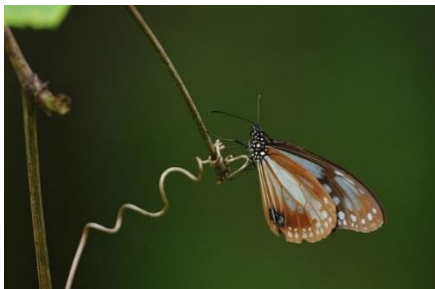
一年で一番日ながい夏至が過ぎて、戦場ヶ原の大きな空に、白い夏雲がぽっかりと浮かぶ。春から夏へと、咲く花はめまぐるしく移り変わり、結実の秋から冬へ向かう「時」の流れの中に、今、自分がいる。湿原を朱色に染めたレンゲツツジも、いずれは散りゆく一抹の寂しさを覚えながら、季節の花が移ろう緑の戦場ヶ原を眺めていた。(T・K)



2017.6.27 ウスバシロチョウ



2017.7.18 ヒョウモンチョウ



2017.7.3 アサギマダラ

楓事典-かえでことてん-

百人一首にも登場する有名な和歌ですが、このシカの「声」を聞いたことのある方はいらっしゃるのでしょうか。今回は、秋のシカについてのお話です。 文・樋口

秋のシカは、発情期を迎えます。オスたちは他のオスへの牽制と考えられている「メーフーン」と、自分の強さやなわばりを主張する「フイーヨー」の二種類の声を発します。「メーフーン」は見えている相手に対して発しており、声の到達する距離は数百メートルですが、「フイーヨー」は1キロメートル以上先まで届きます。和歌に詠まれている「声」は、おそらく遠くまで響く「フイーヨー」だと思われます。聞こえ方は人それぞれですが、もの悲しく感じる人が多いようです。しかし、この声は一日に数回しか鳴かないので、相当なエネルギーを消費するのかもしれない。オスシカは必死に鳴いているのに「もの悲しい」という受け止め方は、ちよつとかわいそうかもしれないね。

じっくり聞いていると、様々な「フイーヨー」を聞くことができます。多くは「フイーヨー」を3回繰り返すのですが、シカによっては2回だけど長く鳴いたり、ちよつと変わった節回しだったりと変化があります。

日常では、シカの姿を見ることは多くありませんが、奥日光の湯元にあるキャンプ場近くで、じっくり観察できることがあります。普段は、黙々と草を食べ休んで反芻を繰り返す穏やかそうに見える暮らしが、秋には一変します。

強いオスは、メスが長く滞在する場所での他のオスを排除し、なわばりを維持します。メスの発情は約一日。なわばりオスは、その間そばに寄り添い他のオスを全く寄せ付けない個体もいれば、複数のメスにちよつかいを出すタイプもあります。なわばりオスに守られた発情メスは、他のオスから追われる心配がなく、ほぼいつもと変わらない一日を過ごしているように見えます。しかし、なわばりから脱出を試みるメスがたまにいます。今いるなわばりのオスとの交尾を拒否し続け、隣のなわばりに移動してすぐに交尾するなんてことがあります。メスはのんびりしているように見えて、実はより良い遺伝子を求めて情報収集を怠らないようです。

じっくり時間をかけて観察していると、「フイーヨー」と鳴いている途中「ゴホッ、ゴホッ」とむせる音や、草を食べている最中に「メーフーン」と鳴き、唾液の影響か、うがいをしているような声となるのを聞いたり、オス同士の非常に激しい角の突き合いに遭遇したりするかもしれません。

紅葉狩りでにぎわう奥日光ですが、双眼鏡を片手にシカの観察を試みるのも面白いですよ。寒くなる時季ですので防寒着を忘れずに。観察の後は湯元温泉で冷えた体を、いたわってくださいね。

奥山に 紅葉踏みわけ鳴く鹿の

声聞く時ぞ 秋は悲しき

猿丸太夫



日光の気象

気象が作る奥日光の地形と植生

国土地理院の2万5千分の一地形図を広げてみましょう。白根山や太郎山、男体山などの山岳は等高線が混んだ険しい地形をしています。戦場ヶ原、小田代原を中心に奥日光の中央部は平らな地形をしています。そして山岳の山麓から戦場ヶ原、小田代原にかけては、傾斜の緩い地形が大きく広がっています。光徳から三本松にかけての男体山山麓、前白根山の斜面に刻まれた沢も出口に向かって浅く広がっています。外山沢や柳沢の流域から千手ヶ浜にかけても平らな地形が広がっています。これらの緩傾斜地帯は、大雨の度に上流から流れ下った土砂が堆積したところです。

湯元の平らな地形も白根沢から湯ノ湖に向かって流れ出た土砂の堆積地です(今では白根沢には砂防工事、治山工事が施されているのでご心配なく)。このように繰り返し土砂が堆積し、平らになったところでは、水分の多い砂質の土壌を好むズミやハルニレ、シウリザクラ、カラマツなどの樹林が発達し、奥日光を特徴づける森林を形成しています。

図2は、三本松付近の航空写真ですが、平らな湿原の中に弧状に森林が伸びています。地上から見ても分かりませんが、上空から見ると細長く土砂が堆積したところに樹木が生えていることが明かです。この土砂の堆積地は、男体山方面から押し出してきた土石流によるものと思われます。泥炭からなる湿原土壌の上では樹木は育ちませんが、土砂が堆積したところでは大きく育ちます。ここでも育っている樹木はカラマツやズミです。

楓通信94号でも触れましたが、1947年のキティ台風による大雨は男体山から土石流を発生させ、それまで水を湛えていた赤沼を埋めて今のような姿に変えてしまいました。それ以降、大雨によって奥日光の地形を一気に変えてしまうようなことは起こっていません。キティ台風はいったいどれほどの大雨を降らせたのでしょうか。気象庁のデータを調べてみると、2日間で640.4mm、最大時間雨量は56.1mmとなっています。意外なことに、これは特に多いというわけではなく、この程度の雨は今でも数年に一度は降っています。赤沼を埋めるほどの土砂が流れてきたのは、降雨量もさることながら、戦後間もない当時は治山・砂防工事もされていなかったことによると考えられます。

文◆辻岡……………
気象予報士の資格を持つ職員が、
毎回1テーマを分かりやすく解説します。
……………



図1 奥日光の地形



図2 三本松付近の航空写真 (YAHOO!地図)

■2016年の平均気温・湯元

	9月	10月	11月
最高気温	16.3℃	10.5℃	7.3℃
最低気温	13.6℃	6.5℃	-1.0℃

※自然公園財団日光支部の記録より

■2017年 日の出日の入り(宇都宮)

	9/1	10/1	11/1
日の出	5:11	5:35	6:03
日の入	18:09	17:25	16:44

※国立天文台ウェブサイトより

■天文情報

	9月	10月	11月
満月	6日	6日	4日
新月	20日	20日	18日
10/9	10月りゅう座流星群が極大		
10/21	オリオン座流星群が極大		
11/18	しし座流星群が極大		

※国立天文台ホームページより

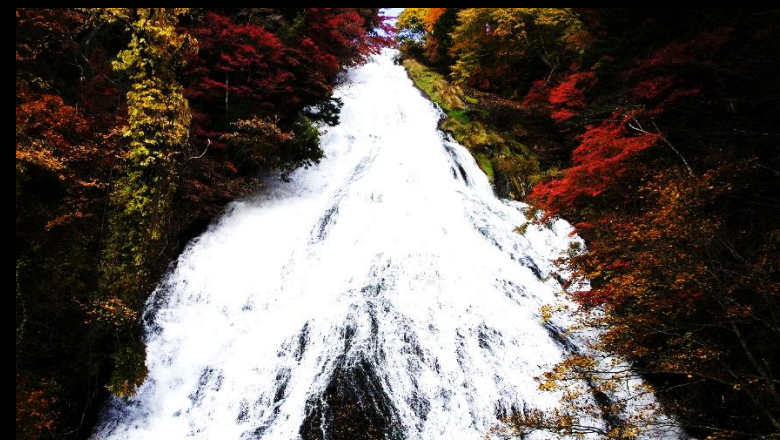
日光名物紅葉風景 平成28年秋



2016. 10. 18 戦場ヶ原



2016. 10. 18 竜頭滝付近の紅葉



2016. 10. 22 湯滝



2016. 10. 27 中禅寺湖と男体山



2016. 10. 26 戦場ヶ原のカラマツ



2016. 11. 4 湯ノ湖の紅葉と新雪

奥日光の魅力再発見

自然探訪ロマン：刈込湖

湯元～小峠～刈込湖往復

申込不要
集合時間 09：50

対象：現地（日光湯元）に集合できる中学生以上
（15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要）
集合場所：日光湯元ビジターセンター前
参加費：1,000円 定員：15名程度の予定

湯元温泉から、神秘的な刈込湖を訪ねる山歩きです。往復約5.3kmの、ロマンあふれる魅力的なコースです。

10/22(Sun)・29(Sun)

10:00—14:00



刈込湖：写真はイメージです

奥日光の魅力再発見

史跡探訪ロマン：大多和宿

光徳～裏男体山志津峠にある大多和宿 史跡往復

日光山修験道の男体山への登山基地となった志津峠近くの大多和宿。晩秋の草むらに眠る四基の石造物に出会う歴史ロマンの山旅

対象：現地（光徳）に集合できる成人
集合場所：光徳無料駐車場
参加費：2,000円 定員：10名

お申込み先

日光湯元ビジターセンター
TEL:0288-62-2321
FAX:0288-62-2378

11/11(Sat)

9:00—14:00



大多和宿史跡：写真はイメージです

奥日光の魅力再発見

湯／湖でバードウォッチング

申込不要
集合時間 09：50

対象：現地（日光湯元）に集合できる小学生以上
（15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要）
集合場所：日光湯元ビジターセンター前
参加費：500円 定員：15名程度の予定

12/3(Sun)

10:00—12:00



写真はイメージです

冬のイベント予定 詳細は次号131号（12月1日発行）でお知らせします。

ファーストステップ！！スノーシュー 平成30年1月下旬

スノーシューで白銀の森散策 平成30年2月上旬

スノーシューで冬の中禅寺湖畔へ 平成30年2月予定

スノーシューでガッツリ歩こう奥日光 平成30年3月上旬

イベントレポート



魅惑のフラワートレイル高山 5/28(日) 9:30～15:30

爽やかな晴天に恵まれたイベント当日、トウゴクミツバツツジが咲き始めた竜頭滝から、中禅寺湖の北岸へと歩を進める。イチリンソウの白い花咲く森から湖岸を歩けば、淡い新緑と、ツツジの赤紫色の花が、青い湖面に映えて美しい。シロヤシオの優美な花を愛でて、いよいよ高山を目指す。一汗をかいて山道を登れば、そこが待望の高山の山頂。ここで楽しいランチ。至福の時を過ごしました。

ゴールの竜頭滝上まで、シャクナゲやツツジの花を觀賞しながら、樹木の尾根道をゆっくりと歩き、皆、元気に下山されました。この時期の高山は、季節の花が楽しめる素敵な山ですね。（M・K）